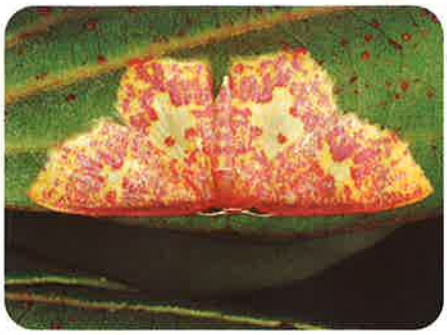
読谷の自然(199)

昆虫類 139

～ビンガタヒメシャク～

（チョウ目:シャクガ科）



なんと沖縄の伝統の染め物である紅型の名前が付いているとても可憐な蛾です。名前のとおり雄の翅は紅型で染めたような模様をしているのが特徴です。雌にはこのような模様はなく、桃色一色に縁が黄色い色をしていますが、こちらもなかなか綺麗です。ただし、このヒメシャクの仲間はもともと体の小さな種類のグループですから、体長5㎜で開帳1.5㎝そこそこ、見つけた場合でもよく見ないとこの綺麗な模様は見えません。むしろ目立たないように、木や草の葉の裏を飛び回っています。とても珍しい蛾ですが、意外と人里に近いところで毎年決まって梅雨明け頃に見ていますので、発生場所と時期さえ分かれば見つけるのは容易です。

現在のところ幼虫がどのように生活しているかという情報はありません。

ところで、蛾の仲間にはなぜか、沖縄の言葉が種名に使われているものが沢山あります。本種以外に例えば、チュラスカシバ、タンチャメノコメエダシャク、ハニンスホソシャク、グシチャンアツバ、クンジシマメイガなど沢山あげることができます。蛾の専門家は、沖縄好きの人が多いのでしょうか。

文・写真　大平特別支援学校
山本正英

『読谷村史』移民・出稼ぎ編通信 Vol.2

移民・出稼ぎ資料調査報告

去る９月に５日間の日程で移民・出稼ぎ関連資料調査をしてきました。今回調査したのは外交史料館（東京）、横浜の海外移住資料館と日本郵船歴史博物館、神奈川県立川崎図書館（川崎）の４箇所で、一番の目的は外務省資料を所蔵公開している外交史料館の２種類の資料でした。１つはハワイホノルル総領事館から移管された戦前の資料で、２つ目は米軍統治下の沖縄についての資料です。今回は時間の制約で総領事館資料だけの調査となりました。

今から20年ほど前に村史編集室は同館の資料調査を行い、同時期に県史や他市町村史も調査をしていましたが、以降に公開された資料の調査は行われていませんでした。総領事館資料は2001年11月に公開されたもので、ハワイに着いた船毎の着移民名簿と帰国する際提出された帰国届です。この資料でこれまでよく分からなかった、ハワイにいつ、誰が何という船で着いたのか。またハワイ生まれの２世を含む帰国について分かるようになります。

川崎図書館は企業の社史を１万５千冊所蔵している日本でも有数の図書館で、移民を運んだ海運会社と紡績会社の社史を見てきました。富士ガス紡績、岸和田紡績、龍田紡績、東洋紡績など読谷の方が働いた紡績の社史もあります。この中から約30冊を川崎図書館からお借りして、２月に村立図書館で展示会を行います。日程については図書館だよりに掲載します。ぜひ、ご覧下さい。また、今回見ることができなかった外交史料館の戦後資料については、来年度の再調査を予定しています。

読谷村史編集室
〒904-0311　読谷村波平37番地
☎　：958-2142
FAX：958-1957
担当：辻　央（あきら）

楚辺の比嘉良三と家族が1931年１月秩父丸で帰国する際の帰国届。子どもはハワイ生まれ。

企業の社史約１万５千冊所蔵している川崎図書館